

# H2クラックメンテ施工要領書

クラックの状況を確認する。



下地清掃

H2クラックメンテは、  
**0.5 ~ 3 mm幅のクラックに適しています。**

: 下地清掃

- ・ブラシやエアクリーナー等で、クラック内の清掃を十分に行う。



吸水調整

: 吸水調整

- ・クラックに水を注入し、吸水調整を行う。
- ・注水作業によって、階下などへの漏水の確認も同時に行う。
- ・H2クラックメンテは水中不分離性を有するので、残水の影響は無く、逆に乾燥状態ではドライアウトに伴う流動性(充填性)低下が懸念される事から、注水は十分に行う。



練混ぜ

: 練混ぜ

- ・H2クラックメンテの質量の30%の水で練混ぜる。

**付属のカップですり切り1杯の水150ccを、  
1袋500gの本製品に加える。**

- ・ダマがなくなるまでよく練混ぜる。
- ・H2クラックメンテのスラリーを注入容器に入れる。



注入

: 注入

注入容器を用い、クラックにH2クラックメンテスラリーを注入する。

H2クラックメンテがクラックに入り込んでいき溝が出来たら重ねて充填する。

### :表面形成

注入終了1～2時間後、H2クラックメンテが耳たぶ程の固さになったところで、余剰のスラリーを除去する。  
万が一注入できていない箇所があれば、パテ処理の要領で押し込む。



表面形成

### :養生

施工終了後、**24時間程度の養生を行う。**



養生

### :清掃

補修部以外に付着した材料は、除去し綺麗に清掃する。



清掃

### < 注意点 >

- ・ クラックの原因が、構造物の不同沈下によるものや外力によるもの、または使用環境の温度変化等によるクラック幅の変動や構造物の乾燥収縮の進行が終了していない場合等は、補修後にクラックが発生することがあります。
- ・ 再度クラックが発生する場合は、再度H2クラックメンテを注入し、様子を見てください。もし、それでもクラックが発生するようでしたら、別の工法をご検討ください。
- ・ 下地処理は適切に行ってください。下地に異物やホコリが付着したまま補修を行うと、所定の性能が発揮できない事があります。
- ・ 下地への注水は十分に行ってください。吸水調整が不十分ですと、ドライアウトによる流動性(充填性)の低下により、所定の性能が発揮できないことがあります。
- ・ 注水時に、階下など補修箇所以外への漏水がないか必ず確認してください。H2クラックメンテは微細な空隙を伝いますので、補修箇所以外へ流出する可能性があります。
- ・ 水量は必ず厳守し、よく練混ぜてください。